

平成 29 年度 神経・精神・行動学コース:精神医学筆記試験 2017.12.22

1. 75 歳の女性。物忘れを主訴に夫に連れられて来院した。2 年前から物忘れが目立つようになり、何度も同じことを尋ねるようになった。買い物で同じものを買ってくることもあり、そのことを指摘しても適当にはぐらかすようになった。また料理も簡単なものしか作らなくなり、心配した夫に連れられて受診した。大学卒業後、市役所に勤務し、60 歳で定年退職した。その後、地域の婦人会活動を活発に行っていたが、最近は外出することがほとんどない。既往歴に特記すべきことはない。診察時、疎通性は比較的良好であるが、時間と場所の見当識障害がみられる。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは 11 点(30 点満点)である。その他の神経学的所見に異常を認めない。血液生化学所見に異常を認めない。頭部 MRI で両側海馬の萎縮を認める。

この患者に対する治療薬として適切なものはどれか、1 つ選べ。(110D41)

- A. ドパミン受容体遮断薬
- B. アセチルコリン受容体遮断薬
- C. アセチルコリンエステラーゼ阻害薬
- D. 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)
- E. セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(SNRI)

2. 78 歳の男性。異常な言動を心配した家族に伴われて来院した。

現病歴:2 年前から、前日の出来事を思い出せなかったり、当日の予定を 30 分おきに確認するようになった。同時期から夜間に大きな寝言を言ったり、手足をバタバタさせていることに家族が気付くようになった。1 年前から、家にいるのに、家に帰らないといけなく、亡くなった人が来ているというようになった。このころから動作が遅く、食事や着替えに時間がかかるようになった。数日前からは繰り返し、ものをとられた、隣人が自分の悪口を言っているという騒ぎ立てるようになったため、困惑した家族に伴われて受診した。

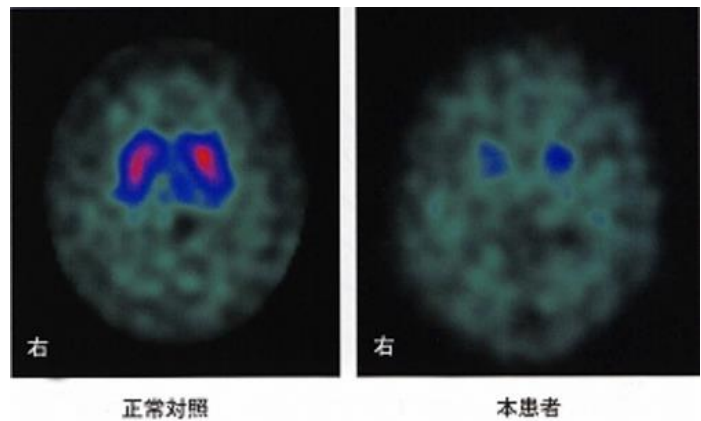
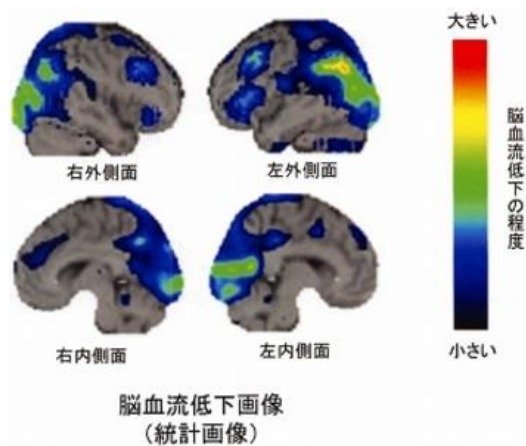
既往歴:75 歳時に両側の白内障手術。

家族歴:父親が脳梗塞。母親が胃癌。

生活歴:喫煙は 65 歳まで 10 本/日を 45 年間。13 年前から禁煙している。飲酒は機会飲酒。76 歳の妻と長女夫婦と同居している。

現症:意識は清明。身長 168 cm、体重 62 kg。体温 36.3℃。脈拍 72/分、整。血圧 148/82 mmHg。呼吸数 16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。改訂長谷川式簡易知能評価スケール 12 点(30 点満点)、Mini-Mental State Examination<MMSE>14 点(30 点満点)。脳神経に異常を認めない。四肢で左右対称性に軽度の筋強剛を認める。腱反射は正常で、Babinski 徴候は陰性。運動麻痺、感覚障害および運動失調を認めない。歩行はやや不安定でつまずきやすい。

検査所見:尿所見に異常を認めない。血液所見:赤血球 418 万、Hb 13.2 g/dL、Ht 42%、白血球 6,300、血小板 23 万、PT 78%(基準 80~120)。血液生化学所見:総蛋白 7.2 g/dL、アルブミン 4.0 g/dL、総ビリルビン 0.8 mg/dL、AST 22 U/L、ALT 38 U/L、LD 328 U/L(基準 176~353)、ALP 254 U/L(基準 115~359)、 γ -GTP 26 U/L(基準 8~50)、アミラーゼ 95 U/L(基準 37~160)、CK 96 U/L(基準 30~140)、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 0.8 mg/dL、尿酸 6.3 mg/dL、血糖 102 mg/dL、HbA1c 5.8%(基準 4.6~6.2)、総コレステロール 242 mg/dL、トリグリセリド 186 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 98 mEq/L、TSH 3.8 μ U/mL(基準 0.2~4.0)、FT₃ 2.6 pg/mL(基準 2.5~4.5)、FT₄ 1.0 ng/dL(基準 0.8~2.2)。CRP 0.4 mg/dL。脳血流 SPECT(下図左)とドパミントランスポーターSPECT(下図右)とを別に示す。



この患者に診られる症状はどれか、2 つ選べ。(110B53)

- A. 妄想
- B. 作話
- C. 相貌失認
- D. むずむず脚症候群
- E. レム＜REM＞睡眠行動障害

3. 「問題 2」の患者について適切な治療薬はどれか、1 つ選べ。(110B54)

- A. β 遮断薬
- B. 筋弛緩薬
- C. 抗コリン薬
- D. ドパミン受容体作動薬
- E. アセチルコリンエステラーゼ阻害薬

4. 「問題 2」の患者に適切な薬剤はどれか、1 つ選べ。(110B55)

- A. ドパミン
- B. ドネペジル
- C. 炭酸リチウム
- D. ハロペリドール
- E. レボメプロマジン

5. 56 歳の女性。右乳癌の治療のため外科病棟に入院していたが、夜間急に興奮状態となった。

現病歴:3 週間前に右乳房切除術を受け、続いて抗癌化学療法を開始した。次第に上腹部不快感、抑うつ気分および不眠が強まった。「私はこのまま死んでいきたい。もう治療は受けたくない」と訴え、食事を摂らなくなった。夜になって急に言動に脈絡がなくなり、点滴を自ら外そうとした。それを止めようとした看護師に物を投げつけ、「悪魔め、私の子供を殺すな」などと激しくののしった。

既往歴:特記すべきことはない。 **家族歴:**特記すべきことはない。

現症:かけつけた当直医が話しかけてもうわの空だったり、興奮したりする。個々が病院であることを理解していない様子である。乳癌以外に身体的な検査で異常は見つかっていない。

この状態は以下のうちどれか、1 つ選べ。(100C28)

- A. せん妄
- B. 誇大妄想
- C. 被害妄想
- D. 心因反応
- E. もうろう状態

6. 「問題 5.」の患者の状態への対応として適切なものはどれか、1 つ選べ。(100C29)
- 隔離する。
 - 興奮を自制させる。
 - 抗不安薬を投与する。
 - 抗精神病薬を投与する。
 - 抗てんかん薬を投与する。
7. 63 歳の女性。隣家とのトラブルを主訴に家族に連れられて来院した。大学を卒業後結婚し、主婦として問題なく過ごしていた。60 歳ころから、明らかな誘因なく「隣家の男性が家の中をのぞいている」というようになり、警察に相談することがあった。さらに、「変な薬を家の中に送り込んで殺そうとしている」というようになり、頻回に隣家に抗議し、隣家の前で罵倒することもあった。昨日は包丁を持って隣家に入り込み、警察沙汰になった、受診時、病識は欠如していた。身体的に明らかな問題は認められなかった。医療保護入院となり、一時拒薬がみられたものの構成腎病薬により約 1 ヶ月で病的体験は軽減し、2 回の外泊でも問題となる行動は示さなかった。また家事を以前と同じようにこなすこともできたことから退院することになった。
- 退院時の家族に対する説明として適切なものはどれか、1 つ選べ。(1008A39)
- 「精神病症状は再燃する可能性があります」
 - 「服薬は患者自身に任せておけば大丈夫です」
 - 「今後自閉的な傾向が現れてくる可能性が高いと思います」
 - 「妄想については、現実ではないと説得し続けてください」
 - 「リハビリテーションのためにデイケアに通所しなければなりません」
8. 30 歳の男性。精神科病棟に入院中である。数年前から家に引きこもりがちな生活を送っていた。2 ヶ月前に幻覚妄想状態を示したため入院となったが、薬物療法で改善した。最近は落ち着いているものの、表情は乏しく、ほとんど 1 日中臥床している。他人との交流はほとんどみられない。
- この患者のリハビリテーションの課題として適切なものはどれか、2 つ選べ。(105E57)
- あるがままの受け入れ
 - 否定的感情の修正
 - 無意識的葛藤の評価
 - 服薬の自己管理
 - コミュニケーション技能の習得
9. 22 歳の女性。不眠と、まとまらない言動と心配した家族に伴われて来院した。3 年前に母親を亡くした後に、まとまらない言動を示し、約 1 ヶ月の入院加療で完全寛解に至り仕事に復帰した。その後、通院加療を受けていたが、薬を飲むと太ることを理由に(15 kg/ 2 年間)、1 年前から通院を中断していた。10 日前から友人と海外旅行に行ったが、不眠が続き何かに怯えているような態度を示すようになった。昨日、帰国後もおびえた様子で眠らず、とりとめのないことをつぶやき、急に攻撃的になったため受診した。診察時、質問に返答することはなく視線を合わせず黙り込んだかと思うと「今、真理をつかむために神と話し合っている。邪魔をするな」と興奮状態となった。神経学的所見、血液所見、脳波所見および東部単純 CT に異常を認めないが、血液生化学所見: HbA1c 8.2%(基準 4.6~6.2)、身長: 160 cm、体重: 75 kg。
- 治療として最も適切なものはどれか、1 つ選べ。(109A23)
- オランザピン
 - バルプロ酸
 - クエチアピン
 - 炭酸リチウム
 - リスペリドン

10. 62 歳の男性。発熱を主訴に来院した。統合失調症のため 30 歳ころから精神科病棟に入院を繰り返し、ハロペリドール、ゾテピンおよびニトラゼパムを服用している。昨日から 40℃ の高熱と高度の発汗があり、心配した家族に付き添われて受診した。家族によれば、普段より反応が鈍いという。持参した昨年健康診断の結果で、クレアチニンは 0.7 mg/dL であった。来院時、意識レベルは JCS II-10。身長 168 cm、体重 61 kg。体温 39.0℃。脈拍 112/分、整。血圧 150/82 mmHg。咽頭粘膜に発赤はなく、胸部に異常を認めない。張雑音は低下している。筋強剛が強くみられる。

尿所見：蛋白 1+、潜血 2+、沈渣に赤血球 1~4 個/1 視野。血液所見：赤血球 304 万/μL、Hb 9.5 g/dL、Ht 27%、白血球 8,800/μL、血小板 13 万/μL。血液生化学所見：総蛋白 6.5 g/dL、アルブミン 3.6 g/dL、AST 225 IU/L、ALT 129 IU/L、LD 848 IU/L (基準 176~353)、CK 35,000 IU/L (基準 30~140)、尿窒素 53 mg/dL、クレアチニン 2.5 mg/dL、Na 135 mEq/L、K 5.3 mEq/L、Cl 106 mEq/L。

本症例への対応で、適切なものはどれか、1 つ選べ。(110I52)

- A. 免疫グロブリン製剤投与
- B. 大量輸液
- C. 抗精神病薬の継続
- D. 赤血球輸血
- E. ステロイドパルス療法

11. 40 歳の女性。「気分の上がり下がり」を主訴に夫と共に来院した。1 年前の転居を機に気分が落ち込み、家事が全く手につかず寝込むようになった。家事を夫に任せて生活していたところ、2 ヶ月前から回復し、この 2 週間は逆に気分が高揚して多弁で眠らない状態が続いているため受診した。話があちこちに飛び、まとまらない。「以前の調子の悪さがうその様で絶好調だ」という。身体所見に異常を認めない。

治療薬として適切なものはどれか、2 つ選べ。(109D23 改)

- A. 炭酸リチウム
- B. パロキセチン
- C. バルプロ酸
- D. ジアゼパム
- E. クロミプラミン

12. 48 歳の男性。不眠を主訴に来院した。6 ヶ月前に自ら望んで転職し、当初は順調であったが、2 ヶ月前からは気分の落ち込みと作業能力の低下とを自覚していた。最近の 1 ヶ月は転職したことを後悔して食事もとれなくなり、不眠が次第に悪化してきたという。本日会社を早退し、自宅で遺書を用意していたところを妻に発見され受診した。

現時点での対応として適切なものはどれか、2 つ選べ。(106I78)

- A. 自殺を計画したことをとがめる。
- B. 現在の職場を辞めるように勧める。
- C. 出来るだけ早く休息を取らせる。
- D. 自殺について触れないようにする。
- E. 治療が必要な病気であることを説明する。

13. 45 歳の男性。数か月前から始まった食思不振と倦怠感を主訴に来院した。「食べ物が砂をかむような味しかしない。食欲がでない」と言う。身長 170cm。最近 2 か月で、67kg だった体重が 63kg に減少した。先週会社の健康診断で受けた上部消化管造影は正常で、胸部エックス線撮影、血液検査および生化学検査に異常所見はなかった。健胃薬を処方したが 2 週たっても症状は改善しなかった。さらに患者は、最近では「朝方早く目が覚めて再び眠れないので、睡眠薬を処方して欲しい」と言う。

診断に最も重要な質問はどれか、1 つ選べ。(100A4)

- A. 「週末には眠れますか」
- B. 「家系に癌は多いですか」
- C. 「物忘れはありませんか」
- D. 「楽しく過ごす時間はありますか」
- E. 「職場でのストレスはありませんか」

14. 40歳の男性。精神疾患の既往はない。慢性活動性C型肝炎の診断で、インターフェロン α の初期量を14日間連日投与され、続いて維持量を週3日の割合で投与され2週間になる。数日前から強い不眠と易疲労感を訴えるようになった。興味の消失、寡黙、食欲減退および自殺念慮を認める。

この患者に対する対応として最も適切なものはどれか、1つ選べ。(89E33)

- A. インターフェロンを初期量に戻す。
- B. インターフェロンを減量する。
- C. インターフェロンを中止する。
- D. インターフェロンを続けながら抗精神病薬を投与する。
- E. インターフェロンを続けながら抗うつ薬を投与する。

15. 29歳の女性。頭痛を主訴に来院した。

現病歴:1か月前から毎日午後3時ごろになると頭が重くなり、肩から首にかけて固まってしまうような違和感を覚えるようになった。症状は次第に強くなり、3週間からは常に頭全体の鈍い痛みを自覚し始めた。市販の鎮痛薬を内服したが症状は改善せず、頭痛のために仕事の効率が悪くなり、何度か「集中力が足りない」と会社の上司に注意を受けた。上司の勧めで脳神経外科を受診し、頭部単純エックス線撮影と頭部MRIとを受けたが異常を認めなかった。2週間からは痛みとともに全身のだるさも出現し、家事も含めたすべてのことがおっくうになっている。また、症状のために夜なかなか眠りにつくことができず、一方、朝は時間どおりに起きることができなくなっている。この1週間のうち何度か歩行中に段差につまずくことがあった。頭を打った記憶はない。軽い吐き気があるが嘔吐はない。便通は1日1回で変化はない。

既往歴:特記すべきことはない。

生活歴:喫煙歴と飲酒歴とはない。夫と2人暮らし。仕事は事務職だが、半年前に部署が変わり、それまでの単純作業から判断の責任を問われる業務となり、恒常的に残業をするようになった。最終月経は10日前から6日前までで、妊娠の可能性はないという。

家族歴:特記すべきことはない。

現症:意識は清明。身長158cm、体重46kg。体温37.1℃。脈拍76/分、整。血圧96/48mmHg。呼吸数12/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。視力に異常を認めない。対光反射は正常である。顔面に浮腫を認めない。前額部および頬部に圧痛や叩打痛を認めない。う歯を認めない。甲状腺腫と頭部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経学的所見に異常を認めない。

診断に最も有用な質問はどれか、1つ選べ。(110H31)

- A. 「異常な光が見えることはありますか」
- B. 「気持ちが落ち込むことはありますか」
- C. 「髪の毛が異常に抜けることはありますか」
- D. 「字を書くのが困難と感じることはありますか」
- E. 「皮膚に赤い、ぶつ、ぶつが出ることはありますか」

16. 東京在住の28歳、女性。短大卒業後現在まで、事務系の会社員として勤務している。これまで特に大きな病気に罹ったこともなく、健康であった。しかし2ヶ月前、エレベーターの中で突然パニック発作が出現した。会社の医務室で1時間ほど休むと症状は消失したが、数日後、同じエレベーター内でまた突然同様の発作が起こった。24階の会社に行くためにはどうしてもエレベーターを使う必要があるため、「発作が起こったらどうしよう」と不安になり、通勤できなくなってしまった。なお、それ以前にはエレベーターを怖がったり、回避したりすることは、一切なかった。また、薬物等の摂取歴はない。

考えられる疾患はどれか、2つ選べ。

- A. 心的外傷後ストレス障害<PTSD>
- B. 全般的な不安症(全般的な不安障害)
- C. パニック症(パニック障害)
- D. 限局的恐怖症(特定の恐怖症)
- E. 適応障害

17. 「問題 16.」の患者について、上記2つの疾患を鑑別するために最も適切な質問はどれか、1つ選べ。

- A. 「その発作には、動悸や呼吸困難がありましたか」
- B. 「その発作は、どのような場所で起こりますか」
- C. 「その発作の持続期間はどれくらいですか」
- D. 「その発作には、きっかけがありますか」
- E. 「その発作が起こったA状態を避けてしまいますか」

18. 28歳の男性。人前に出るのが怖くなったため、自ら治療を希望して精神科外来を受診した。3か月前から誰かと会って話をすると、その相手を殴ってしまうのではないかと繰り返し考えるようになった。自分でもばかばかしいことと感じているが、最近では閉じこもりがちな生活に陥っている。

最も考えられるのはどれか、1つ選べ。(105/52改)

- A. パーソナリティ障害
- B. 妄想性障害
- C. 社交不安症(社交不安障害、社会恐怖)
- D. 強迫症(強迫性障害)
- E. 適応障害

19. 62歳の女性。物忘れを主訴に1人で来院した。半年前から大切なことを忘れそうで何かとメモを取るようになった。メモを取っても取り忘れたのではないかと落ち着かなくなる。だんだん記憶力が落ちてきたと思う。楽しみにしていた友人との旅行を、旅先で体調を崩すのが心配になって取りやめてしまった。救急車のサイレンを聞くと、孫が事故にあったのではないかと気もそぞろになる。動悸がしやすく、時々めまいもするが、家事全般はこなしている。身なりは整い、動作は機敏で、面接中はやや緊張しているが、受け答えは適切である。

最も考えられるのはどれか、1つ選べ。(103A39)

- A. うつ病
- B. Pick病
- C. 全般不安症(全般的な不安障害)
- D. 身体症状症(身体表現性障害)
- E. Alzheimer型認知症

20. C 子さんは、現在、アパレル関係の会社に勤めている。高校を卒業後地元にあるデザイン関係の専門学校に通っていたが、友人と東京に遊びに行った時芸能プロダクション関係者にスカウトされた。そして、「うちの事務所に入れば、芸能化にデビューさせてあげる」と言われ、20 歳で専門学校を辞め、親の反対を押し切り、上京した。しかし、そのプロダクションは暴力団の事務所で、C 子さんは上京後すぐにプロダクション関係者と名乗った暴力団員に監禁され、無理やり覚醒剤を打たれた。数ヶ月後、見張りがいなくなった隙に近くの交番に駆け込み、保護された。その後 C 子さんは、実家に戻り、徐々に落ち着きを取り戻し、数ヶ月後には今の会社に就職した。仕事も順調で、徐々に心の傷も癒され、1 年後同僚の男性から虹彩を申し込まれた。そこで C 子さんは自分の過去を離したが、その男性はすべてを受け入れてくれ、交際が始まった。しかし、男性が優しくしてくれればくれるほど、過度にびくびくしてしまったり、監禁された時のことがフラッシュバックして、気がつくと、その男性に暴力をふるってしまったりするようになった。その後 C 子さんは彼を避けるようになり、夢にも過去のことが何度も出てきて、眠るのが怖くなり、眠ることもできなくなった。また、最近では趣味のジャズダンスもやらなくなり、疎外感を感じている。

本症例について特徴的でないものはどれか、1 つ選べ。

- A. 侵入的な回想
 - B. 持続的な過覚醒
 - C. 周囲への無反応
 - D. 外傷体験を回想させる状況の回避
 - E. 強いストレスを経験した直後の発症
21. 8 歳の男児。学校へ行きたがらないことを主訴に母親に連れられて来院した。成績は中程度であるものの文字を書くことが苦手で、特に漢字を見本通りに書き写すことができない。このために教師や親から叱責されることが多くなり学校に行きたがらなくなった。友達関係に問題なく、運動も普通にできる。手先はやや不器用であるものの神経学的診察で他に異常を認めない。

この疾患について間違っているものはどれか、1 つ選べ。(108D20)

- A. 男児に多い。
 - B. 知能は正常範囲であることが多い。
 - C. 注意欠陥多動性障害の合併が多い。
 - D. 作業に真剣に取り組ませると所持は改善することが多い。
 - E. 成人まで基本症状は持続することが多い。
22. 4 歳の男児。保育所で他の児に興味を示さないことを指摘され来院した。身長 102 cm、体重 15.6 kg。乳児期には母親の後追いをせず、現在も一人で遊ぶことが多い。発語が遅く二語文は話せない。換気扇に異常な興味を持っている。

この疾患について正しいものはどれか、1 つ選べ。(103A23 改)

- A. 感覚過敏を伴うことが特徴である。
- B. 適切な育児によって愛着は形成される。
- C. 1 歳前後で人見知りや後追いが激しい。
- D. 知的発達の遅れを伴うものは約 10%である。
- E. 言葉が現れればコミュニケーションは成立するようになる。

23. 10 歳の男児。わいせつな言葉を口走ることを主訴に両親に伴われて来院した。5 歳ころから瞬目、肩をすくめる、首振り及び咳払いなどの突発的かつ律動的で反復する運動が出現し、軽快と増悪とを繰り返してきた。最近、主訴の症状が出現した。特記すべき既往歴はない。神経学的な所見に異常を認めない。

この患児について正しいのはどれか、1 つ選べ。(107I44)

- A. 親の過干渉が主な原因である。
- B. 異常な運動は睡眠中ほぼ消失する。
- C. おかれた状況にりる症状の変動は少ない。
- D. 成人まで症状が軽快せずに持続することが多い。
- E. ごく短時間でも自分で症状を止めることが出来ない。

24. 7 歳の男児。落ち着きがないことを主訴に母親に連れられて来院した。5 歳ころから一つのことを続けてやれない。じっとして授業を受けていられず、教室を歩き回ったりするため、担任の教師から受診を勧められた。診察中、絶えず手足をそわそわと動かしているのが認められる。

この疾患で正しいのはどれか、1 つ選べ。(97A6 改)

- A. 脳内ドーパミン神経系の異常を呈する遺伝性疾患である。
- B. てんかんを伴いやすい。
- C. 衝動性が強い。
- D. メチルフェニデートは無効なことが多い。
- E. パーソナリティ障害との併存が多い。

25. 21 歳の男性。「就職など、将来のことが心配である」という訴えで来院した。

現病歴：大学卒業を控え、就職活動でいろいろな企業の面接を受けた。しかし面接担当者の前では恐怖感があり声が出なかった。

出生・発達歴：在胎 38 週、自然分娩で出生した。手先は不器用であったが、言語発達の遅れはなかった。幼小児期は周りの人と視線が合わず、独り遊びが多かった。小学校では、プロ野球選手の背番号や経歴について非常に興味を持ち「プロ野球博士」と言われていた。小学校、中学校、高校では運動が苦手で、いじめられたり、からかわれたりすることが多かった。その後現役で希望の大学の工学部に入学した。友達は少なく恋愛経験もない。

既往歴：特記すべきことはない。

現 症：意識は清明。身長 172 cm、体重 55 kg。体温 36.1℃。脈拍 76/分、整。血圧 120/78 mmHg。診察室では不安な様子で下を向き視線を合わせない。

診断に際して最も有用な検査はどれか、1 つ選べ。(102G65)

- A. 心理検査
- B. 脳波検査
- C. 脳脊髄液検査
- D. 脳 SPECT
- E. 頭部単純 MRI

26. 35歳の女性。心窩部の不快感を訴えて来院した。症状は1年以上続いており、既に4ヶ所の病院を受診した。そのたび精密検査を受けたが症状を説明できる異常は認められなかった。しかし患者はこれまでの医師の説明に納得できず、「癌のような重い病気なのではないかと思う。検査で見つからないだけなのではないか。医師がかくしているのではないか」と疑い深く不安になっており、再度同じような精密検査を要求している。
- 最も考えられる疾患はどれか、1つ選べ。(99C20)
- A. うつ病
 - B. 心身症
 - C. 妄想性障害
 - D. 病期不安症(心気障害)
 - E. 全般不安症(全般性不安障害)
27. 32歳の女性。1年前に夫婦げんかの最中に動悸がひどくなり、息が苦しくなり、気が遠くなり、体が弓なりの緊張状態となって近医で処置を受けた。その後、同様の発作の頻度と持続時間とが増加した。最近では夫婦仲も冷えて離婚話も出てきたが、その話が出るたびに発作を繰り返し、外来受診をしていた。身体的異常はない。
- 治療として最も適切なのはどれか、1つ選べ。(102G60)
- A. 精神療法
 - B. 抗精神病薬投与
 - C. 電気けいれん療法
 - D. 抗けいれん薬投与
 - E. 生活技能訓練[social skills training< SST>]
28. 27歳、主婦。“夫や自分の子供のこともわからない”ことを主訴に、家族に連れられ、来院した。23歳で大学の同級生と結婚。現在、3歳と2歳の男児の母親で、家族4人と義母の5人暮らしである。半年前、義母の100万円をちょきんするために、自転車で近くの郵便局まで外出したが、その後行方不明となる。家族はすぐに警察に届けたが、目撃者も無く自転車も見つからず、その後の足取りも分からず仕舞いだった。もちろん、母親の口座に100万円は入金されていない。数日前、自宅から600km離れたA県B市にある工場で働いていた患者を警察が発見し、家族が現地向かった。警察で面会するが、身体的には問題はないものの、その時夫に対して「あれ？〇〇君(夫の苗字)、大学卒業して以来かな。どうしていたの？この子たちは〇〇君の子供さん？そうか、結婚したんだ」と結婚後のことを全く覚えていないことが判明した。警察では「たぶん、心の問題でしょう」と地元の精神科への受診を勧められ、当科受診となった。
- 本症について正しいものはどれか、2つ選べ。
- A. 健忘を認める場合には、必ず遁走がある。
 - B. 必ずトラウマが存在する。
 - C. パニック症(パニック障害)がしばしば併存する。
 - D. 抗認知症薬が有効なことがある。
 - E. 催眠療法が有効なことがある。

29. 37 歳、女性、3 児の母親(2 児は、数年前に相次いで敗血症で死亡)である。四女が肝機能障害で入院。治療は奏功していたが、突然状態が悪化し、敗血症及び肺水腫にて死亡した。その後、死亡した四女の血液検査で、通常は血中に存在しない細菌が確認されたため、この時点で病院側は警察に通報した。そして警察が病室の水道蛇口付近で採取した細菌を鑑定した結果、四女の血中の細菌と一致。肺水腫を引き起こした菌と判明された。警察は、この母親から事情を聞いたところ、四女の病室内の水道水の水を注射器で点滴回路に数回混入したことも認めた。なお、4 年前、2 年前に同病院にて、二女、三女が相次いで敗血症で死亡した時も、同じ手口で水道水を点滴に混ぜたことを認めた。その 2 年後、この母親は傷害致死罪、傷害罪にて懲役 10 年の実刑判決を受けた。

本症例について誤った記述はどれか、2 つ選べ。

- A. 外傷または疾病の無意識的な誘発を認める。
 - B. 明らかな外的報酬は無いことが多い。
 - C. 妄想性障害が併存することがある。
 - D. 実際に精神科が対応することは稀である。
 - E. 入院患者の約 1%が本症の診断基準を満たすとされている。
30. 45 歳、独身男性。大学病院歯科口腔外科より“原因不明の歯痛”とのことで、紹介受診。

数年前より続く歯痛で悩んでいる。特に仕事上のストレスが貯まるとひどくなるという。当初は虫歯だと思い、近くの歯科医院で治療(抜歯)をしてもらったが、症状は全く変わらなかったため、大学病院歯科口腔外科へ送られてきたようである。しかし精密検査にても、歯痛の原因となる疾患は見つからなかった。だがその痛みはひどくなる一方で、内科医院から痛み止めや抗不安薬が大量に処方されており、最近では量が増えて依存状態となってしまっている。

本症に対する薬物療法について正しいものはどれか、1 つ選べ。

- A. 抗精神病薬が有効である。
 - B. 抗うつ薬が有効である。
 - C. 抗不安薬が有効である。
 - D. 抗てんかん薬が有効である。
 - E. 気分安定薬が有効である。
31. 18 歳の女子。繰り返す授業中の居眠りを主訴に来院した。17 歳ころから夜間十分に眠っても日中に強い眠気を感じるようになり、次第に日中の居眠りが増えてきた。半年前から寝つく際に意識はあるのに力が入らず体を動かすことができないという体験が出現するようになった。日中に大笑いすると膝の力が突然に抜けることがある。診察時、意識は清明で神経学的所見に異常を認めない。

この患者の訴えとして考えられるものはどれか、2 つ選べ。(110I68 改)

- A. 「会議中に突然眠ってしまいます」
 - B. 「足がむずむずしてよく眠れません」
 - C. 「毎日明け方になるまで眠れません」
 - D. 「寝入りばなに誰かに呼ばれる気がします」
 - E. 「毎晩、眠れないのではないかと不安になります」
32. 50 歳の女性。不眠を主訴に来院した。寝床に入っても何時間たっても眠れないのがつらいと訴える。一方、ソファでテレビを見ているとウトウトすることがある。睡眠がとれた翌日は気分もよく趣味を楽しむことができる。

この患者への指導として適切なのはどれか、1 つ選べ。(108H30)

- A. 「昼寝をしてください」
- B. 「寝床で本を読んでください」
- C. 「起床時間を遅くしてください」
- D. 「早めに寝床に入ってください」
- E. 「眠れない時は寝床から出てください」

33. 29 歳の男性。日中の耐え難い眠気を主訴に来院した。1 年前から睡眠中の激しいいびきと無呼吸とを家族に指摘されていた。最近、日中の眠気が強くなり、勤務に支障をきたしている。身長 160 cm、体重 95 kg。両側口蓋扁桃のⅡ度の腫大を認める。
- 予想される検査所見として正しいものはどれか、2 つ選べ。
- A. 血圧上昇
 - B. 赤血球増加
 - C. PaCO_2 低下
 - D. 機能的残気量増加
 - E. 横隔膜低位
34. 17 歳の女子。やせを心配した母親に連れられて来院した。10 か月前から現在までに 15 kg やせた。4 ヶ月前から無月経となった。最近、学校での昼食の弁当の中身を捨てていることに担任の教師が気付き、病院に受診させるよう母親に勧めたという。身長 158 cm、体重 31 kg。
- 本症では通常みられない検査所見はどれか、2 つ選べ。
- A. 血小板減少
 - B. 低アミラーゼ血症
 - C. 代謝性アルカローシス
 - D. 心電図による ST 上昇
 - E. 頭部 MRI による軽度の脳萎縮
35. 25 歳の女性。過食と嘔吐とがあるために母親に連れられて来院した。1 年前から短時間に大量の食べ物を摂取しては、指を口に入れて嘔吐するというエピソードを週に 2～3 回繰り返している。体重の変動が著しい。
- 本症例では通常みられない症状はどれか、1 つ選べ。(94F33 改)
- A. 強迫症状
 - B. 否定的な自己評価
 - C. 絶食
 - D. BMI(Body Mass Index)が 17.5 以下の低体重
 - E. 耳下腺の肥大
36. 52 歳の男性。大量飲酒を主訴に妻に伴われて来院した。23 歳から飲酒を始め、10 年前からは日本酒 1 升を毎日飲酒していた。この半年間は朝から飲酒し、食事量が減少し、仕事も休みがちになった。健康診断で肝機能障害を指摘されている。意識は清明で、静穏である。このままではいけないと説明したが、本人は「酒を飲まないと眠れない。酒はやめようと思えば、やめられる」と述べている。
- 本症例では通常みられない身体疾患はどれか、1 つ選べ。
- A. 胃ガン
 - B. 膵石
 - C. 肺ガン
 - D. 小脳変性症
 - E. 認知症

37. 「問題 36.」の患者に対する対応として適切なのはどれか、1 つ選べ。(107H30)
- 節酒を勧める。
 - 自助グループへの参加を勧める。
 - 抗酒薬を妻に渡す。
 - 抗精神病薬を処方する。
 - 閉鎖病棟に入院させる。
38. 42 歳の男性。競馬の騎手。20 年来の大酒豪。3 日前、落馬による下腿骨骨折で緊急手術を受けた。術後、不眠を訴えていたが、本日になって深夜急に起き上がり、自分お状態が分かっていないようで、視線も定まっていない。
この患者で発症する可能性の引くおい症状はどれか、1 つ選べ。
- 幻覚
 - 粗大な振戦
 - 意識障害
 - 作話
 - リープマン現象
39. 「問題 38.」の患者に対する対応として適切なのはどれか、1 つ選べ。(97D4)
- 警察への通報
 - 頭部単純 CT
 - 電気けいれん療法
 - 塩酸モルヒネ投与
 - ジアゼパム投与
40. 28 歳の女性。B 型肝炎の治療のために内科に入院した。入院当日に大声を出して興奮状態となったため精神科に転科となった。「盗聴され、監視されている」、「殺される」とおびえながら話す。以前、覚醒剤の乱用で同様の状態が発生したことがあるが、ここ 2 年間は覚醒剤を使用していなかった。今回の入院を契機に急激にこのような状態となった。意識は清明。
本症例について正しいものはどれか、2 つ選べ。(102I78 改)
- 視覚異常が優勢である。
 - アルコールの使用が引き金になることがある。
 - 自傷行為を行うことは稀である。
 - 覚せい剤使用中止後の反跳現象である。
 - 覚せい剤依存症の離脱症状である。
41. 次のうち、疾患とそれに特徴的な精神症状の組み合わせで誤っているものはどれか、1 つ選べ。
- | | |
|--------------|--------|
| A. 双極性障害 | — 観念奔逸 |
| B. うつ病 | — 思考制止 |
| C. レビー小体型認知症 | — 幻聴 |
| D. 自閉スペクトラム症 | — 感覚過敏 |
| E. 統合失調症 | — 減裂思考 |

42. 次のうち、精神科面接の説明で正しいものはどれか、1つ選べ。
- A. 初診では問診の項目すべてを網羅的に尋ねる必要がある。
 - B. 半構造化面接は open question の割合が半分以上に設定されたものである。
 - C. 初診時に家族が共に来院した場合は、初診では患者本人のみと話すべきである。
 - D. 患者と家族の間で話が食い違っている場合には患者の意見を優先すべきである。
 - E. 精神科においては面接が治療と検査の両方の意味を持つ。
43. 次のうち、三環系抗うつ薬の副作用としてみられないものはどれか、1つ選べ。
- A. 口渇 B. 徐脈 C. 排尿障害 D. 眼圧亢進 E. 便秘
44. 抗精神病薬を服用中の患者から、「足がむずむずして座ってられない」との訴えがあった。考えられる副作用はどれか。
- A. アカシジア
 - B. 急性ジストニア
 - C. パーキンソン病
 - D. 遅発性ジスキネジア
 - E. 悪性症候群
45. 次のうち、選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)について、正しいものはどれか、1つ選べ。
- A. 強迫症には効果がない。
 - B. 抗コリン作用は、三環系抗うつ薬よりも強い。
 - C. うつ状態が改善したら、すぐに使用を中止する。
 - D. 抗うつ効果は、投薬後すぐに認める。
 - E. 服用初期に、嘔気を良く認める。
46. 次のうち、正しいものはどれか、1つ選べ。
- A. 「性同一性障害」のガイドラインには、精神療法、ホルモン療法、手術療法の手順が書かれている。
 - B. “LGBT”の“B”は、「少年」を表す。
 - C. “ヒステリー”という用語は、最近では公式に良く使用されている。
 - D. “LGBT”のなかで、“T”は多数派である。
 - E. 同性愛は、日本では古来、厳しく禁じられていた。
47. 次のうち、誤っているものはどれか、1つ選べ。
- A. キリスト教徒いすらむきょうの起源となる宗教は、同じである。
 - B. 「旧約聖書には、同性愛を禁じる文言がある」と解されてきた。
 - C. “MTF”は、生物学的な女性であって男性への同一性を抱くものを指す。
 - D. “レインボーフラッグ”は、“LGBT”のシンボルとして使われている。
 - E. 典型的な性別違和の場合、性についての違和感は思春期以降に現れる。
48. 次のうち、正しいものはどれか、3つ選べ。
- A. プラトンは、「成功が少なくなるとヒステリーになる」と記した。
 - B. ヒステリーの主たる症状は、“解離”と“転換”である。
 - C. “LGBT”は、概ね“同性愛”という点で共通する特徴を有する人たちである。
 - D. 性的思考は大きく、自分を男と捉えるか、女と捉えるか、の2つに分かれる。
 - E. 文科省は公式には、学校において「性同一性障害」について配慮するように求めている。

49. 次のうち、「境界性パーソナリティ障害」について誤っているものはどれか、1 つ選べ。
- A. 統計的には、「境界性パーソナリティ障害」の診断基準を満たした後、10 年経過すると約半数の人が診断基準を満たなくなる。
 - B. 「パーソナリティ障害」には、遺伝要因が認められる。
 - C. 「境界性パーソナリティ障害」は、「抑うつ状態」や「双極性障害」と併存することがしばしばある。
 - D. 「境界性パーソナリティ障害」の興奮時には、炭酸リチウムの頓用使用が効果的である。
 - E. 「境界性パーソナリティ障害」への医療スタッフの対応として、“ボーダーラインシフト”が提唱されている。
50. 次のうち、「境界性パーソナリティ障害」について正しいものはどれか、1 つ選べ。
- A. パーソナリティ特性が患者自身にとって自我親和的である場合には、家族などの他の情報提供者から病歴を聴取することがより有効である。
 - B. 「パーソナリティ障害」のクラスター分類は、類似性に基づいて分けているため、異なる群の「パーソナリティ障害」を同一人物が併存していることは極めてまれである。
 - C. クラスターB 群の「境界性パーソナリティ障害」では、他の群に比し、「うつ病」の併存が多い。
 - D. 昨今の社会情勢を反映して、18 歳未満でも「反社会性パーソナリティ障害」と診断しても差し支えない。
 - E. 「境界性パーソナリティ障害」を有する者への抗精神病薬の投与は禁忌である。
51. 次のうち、“認知行動療法(CBT)”について正しいものはどれか、2 つ選べ。
- A. 環状を変えることによって“自動思考”を修正することを目指す。
 - B. 何か出来事があった時に瞬間的に浮かぶ考えを“自動思考”という。
 - C. “認知再構成法”では、コラム表を用いる。
 - D. 「うつ病」患者には、適応がない。
 - E. 「不眠症」患者には、適応がない。
52. 次のうち、頭蓋磁気刺激療法(TMS)において、磁気刺激を与える適切な部位はどこか、1 つ選べ。
- A. 扁桃体
 - B. 海馬
 - C. 背外側前頭前野
 - D. 前部帯状回
 - E. 角回
53. 次のうち、精神科に関連した検査について誤っているものはどれか、1 つ選べ。
- A. Mini-Mental State Examination(MMSE)は言語性 IQ、動作性 IQ、総合 IQ が測定できる。
 - B. わが国では、認知症のスクリーニング検査として、長谷川式簡易知能評価スケールが最も用いられてきた。
 - C. 前頭葉機能検査として、FAB がある。
 - D. 脳波は、大脳皮質の神経細胞における電気活動を反映している。
 - E. 患者のパーソナリティの特徴を把握する場合には、“投影法”を行うことが多い。
54. 次のうち、“成年後見制度”について正しいものはどれか、1 つ選べ。
- A. “法定後見人”は、都道府県知事が選任する。
 - B. 施設入所の契約は、“後見人”には依頼できない。
 - C. “成年後見人”は、財産管理などの法律行為を支援する。
 - D. 日常生活自立支援事業の一部として位置づけられる。
 - E. 判断能力のあるうちに“後見人”を指定することは出来ない。

55. 次のうち、“精神保健福祉法”による入院に関する記述で正しいものはどれか、1つ選べ。
- A. “任意入院”では、精神保健指定医が必要と認めれば72時間に限り痰飲を制限できる。
- B. “医療保護入院”では、2名の精神保健指定医が認めれば家族の同意は不要である。
- C. “措置入院”では、家族の同意が得られた時点で速やかに“医療保護入院”に切り替える。
- D. “緊急措置入院”では、精神保健指定医の診察なしで72時間に限り入院させることができる。
- E. “応急入院”では、自傷他害の恐れがあり、緊急を要する場合、72時間に限り入院させることができる。

* 模範解答

番号	解答	出典	番号	解答	出典	番号	解答	出典	番号	解答	出典
1	C	110D41	16	C, D		31	A, D	110I68 改	46	A	
2	A, E	110B53	17	B		32	E	108H30	47	E	
3	D	110B54	18	D	105I52 改	33	A, B		48	A, B, C	
4	B	110B53	19	C	103A39	34	B, D		49	D	
5	A	100C28	20	E		35	D	94F33 改	50	A	
6	D	100C29	21	D	108D20	36	C		51	B, C	
7	A	108A39	22	A	103A23 改	37	B	107H30	52	C	
8	D, E	105E57	23	B	107I44	38	D		53	A	
9	E	109A23	24	C	97A6 改	39	E	94D4	54	C	
10	B	110I52	25	A	102G65	40	A, B	102I78 改	55	A	
11	A, C	109D23 改	26	D	99C20	41	C				
12	C, E	106I78	27	A	102G60	42	E				
13	D	100A4	28	B, E		43	B				
14	C	89E33	29	A, C		44	A				
15	B	110H31	30	B		45	E				